

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	タムスわんぱく保育園木場
施設所在地	東京都江東区木場2-13-17

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体操

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

当園は子どもたちが身体を存分に動かして遊ぶ機会が少ない。そのため、運動能力を活性化
する目的で月に一度体操活動を実施し、「できた」喜びを子どもたち自身が感じている姿が
見られる。その活動を通して日々の保育活動の中でも身体を動かして遊ぶ楽しさを存分に感
じてほしいと考え、テーマとした。

2. 活動スケジュール

- ・年間を通して月1回、外部講師による体操教室を実施した。
- ・各クラスごとに活動を行い、年齢や発達に合わせて内容を設定した。
- ・トランポリンを使用しながら、継続的に身体を動かす活動を取り入れた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) 準備した道具

- ・エアートランポリン (跳ぶ面がコの字型に覆われたモノ)、家庭用ミニトランポリン (円形)、
マット6枚、跳び箱2台

環境設定

- ・エアートランポリンの乗り降り口として、跳び箱2台で階段を作りその付近に落下防止の為にマッ
トを設置、ミニトランポリンの方はマットの上に配置した。全体の配置はエアートランポリンとミニ
トランポリンを並行に配置した。
- ・エアートランポリンを跳ぶ際は、子ども同士の衝突を防ぐ為にマットを中央に置き2人ずつとし

4. 探究活動の実践

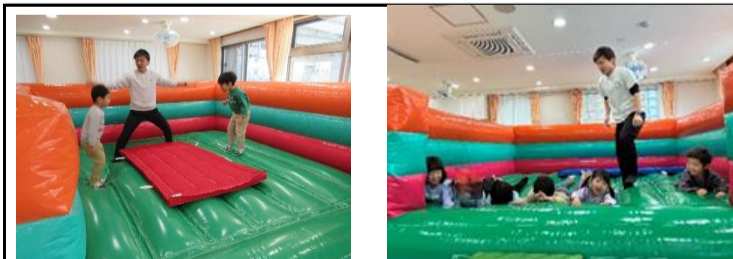
<活動の内容>

- ・跳び方と止まり方の指導
- ・足でのジャンプ：手回しジャンプ、うさぎジャンプ、グーバージャンプ
ポイント→色んな動きのジャンプを行い、調整力・体幹を鍛える
- ・足以外でのジャンプ：腰落ち、腹落ち、四つ這い落ち
ポイント→トランポリンの特徴である足以外での跳躍・浮遊体験
- ・鉄棒・トランポリン・休憩の3チームに分けてローテーションで実施した

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・どのクラスの子も初めて経験したであろう大きなトランポリンにも、怖がらず終始笑顔で
楽しそうであった。
- ・出来栄としては、想定よりもまっすぐ上へ上手に跳べている子が多かった。
- ・友だちの姿を見て「やってみよう」と意欲を持ったり、保育者がやり方をそっと伝えると
安心して挑戦し、できるようになった喜びを友だちと笑顔分かち合う姿がみられた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・繰り返し活動に取り組む中で、「やってみよう」という気持ちを持って主体的に参加する
姿が増えていった。
- ・普段の体操でも楽しそうに行っているが、トランポリンという器具を使う事で普段よりも
楽しそうな表情を見ることができ、改めてトランポリンという器具のすばらしさを再認識す
ることが出来た。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	タムスわんぱく保育園木場
施設所在地	東京都江東区木場2-13-17

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日頃から知っている単語を使って挨拶をしたりする姿がみられることから、ネイティブ講師による遊びの中で楽しみながら英語に親しむことを目指し、子どもたちの英語に対する興味関心をさらに深めていくため。

2. 活動スケジュール

・年間を通して月に1回、外部講師による英語教室を実施した。
・各クラスごとに活動を行い、年齢や発達に合わせながら、英語の歌や言葉、簡単なやり取りに親しめるよう取り組んだ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・英語の歌や音楽を流せるようBluetoothスピーカーを準備し、子どもたちが楽しみながら英語に親しめる環境を整えた。
・また、講師が準備したカードや教材を使用しながら、年齢や発達に合わせて無理なく活動へ参加できるよう環境設定を行った。
・講師の表情や口の動きが見やすいよう机は使用せず、椅子のみを半円形に並べて活動を行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・外部講師による英語教室を月に1回実施し、歌やカード教材、簡単なやり取りを通して英語に親しめるよう活動を行った。
・天気や色、数、食べ物、動物など子どもたちに身近なテーマを取り入れながら、楽しんで英語の言葉や表現に触れられるよう取り組んだ。
・また、講師の発音や表現を真似したり、友だちと一緒に声を出したりしながら、興味を持って活動へ参加する姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・英語の歌に合わせて一緒に声を出したり、講師の発音や動きを真似したりしながら、楽しんで活動へ参加する姿が見られた。
・「Apple!」「Blue!」など知っている英語を嬉しそうに発言したり、友だち同士で顔を見合わせながら一緒に言葉を繰り返したりする姿も見られた。
・保育者も子どもたちと一緒に英語に触れながら、安心して発言したり表現したりできるよう関わりを行った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・活動を重ねる中で、子どもたちは英語の歌や言葉に親しみをもち、自分から声に出して楽しむようとする姿が増えていった。
・保育者は、繰り返し英語に触れることで、子どもたちが安心して発言したり、自分なりに表現しようとしたりする姿につながることに気づくことができた。
・また、友だちと一緒に言葉を繰り返したり、講師の発音を真似したりする中で、楽しさや安心感が意欲につながっていくことを実感した。